

講義レジュメ

講師 南條 史生

内容・テーマ

博物館と地域の未来 ～今博物館とは何かを考える～ 期 日 平成 29 年 12 月 15 日

博物館・美術館はすでに存在している収蔵品こそが出発点であり、その存在の核であった。

しかし特に60年代以後、観客に対して収蔵品を如何に展示・公開するかということに博物館・美術館の主眼が移ると、学術的な知識を駆使して展示のコンセプトを立て、観客にわかりやすく展示物の背景を紹介するという新たな職能が発展した。

しかしご承知の通り、今日の博物館・美術館は社会の要請としてそれ以上の役割を期待されているのではないか。

そこでそれを考えるためのトピックを以下に4つあげ、考えてみた。

- 1 地域（都市）活性化の装置という役割
- 2 観光資源としての価値創造
- 3 ラボラトリーとしての可能性
- 4 文化のプラットフォームという未来

特に地方博物館・美術館に期待される地域振興は各地の地方芸術祭と同様、喫緊の課題である。では博物館・美術館がその問題に貢献するとはどのような方法論があり、またどのような困難と問題があるのであろう。

博物館・美術館で働く専門家として我々は、こうした新しい状況について考え、自分なりの回答を準備する必要があるのではないだろうか。